

1月行事予定

日	曜	行事
1	水	学校閉庁日
2	木	学校閉庁日
3	金	学校閉庁日
4	土	
5	日	
6	月	17:00 完全下校
7	火	始業式 身なり指導 第3回校内課題試験①
8	水	第3回校内課題試験②
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	17:00 完全下校 進研総合学力テスト①
18	土	進研総合学力テスト②
19	日	
20	月	
21	火	第3回進路志望調査
22	水	
23	木	
24	金	個人写真撮影
25	土	英語検定 (申込者のみ)
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	進研共通テスト模試①
1	土	進研共通テスト模試②



みなさんの冬休み中の取り組みを測る試験です。冬休み課題に計画的に取り組み、身に付けた上で臨みましょう。

身なり (制服・爪・髪等) を整えておきましょう。



《3学期スタート!》

皆さんが受験する共通テストまであと1年! 「長い!」と思うかもしれませんが、あっという間です。2年生の3学期は「3年0学期」と言われますが、受験勉強(=学校の授業に関すること以外の自分のための学習)をまだ意識していない人は、冬休みをきっかけとして、少しずつでも取り組んでみましょう。(模試結果を分析し、**苦手分野の克服に努めることがオススメ!**)

《なぜ、模試を受験するのか??》

その1 本番を想定した環境での受験
決められた日程で、みんなで教室に集まり、周囲の人の気配や筆記の音、身じろぎや問題冊子をめくる音など、静かな中にも周囲から受けるストレスを感じながら受験し、そのような環境に慣れることができます。1日試験に集中して取り組むには、体力やメンタル、短い時間での気分転換など様々な要素が必要となります。

その2 自分の状況を確認
自分の苦手分野の把握ができます。模試の振り返りをしっかり行い、分析→復習→対策に取り組むことで、苦手を克服できます。

そして、受験は競争です。自分の全国での位置を確認できます。目標までの「距離」を知り、それに見合った努力を計画的に積み重ねましょう。

その3 学習の目標として活用する
範囲が広いので、自分の今までの学習の積み重ね(=実力)が問われます。模試で自分が納得できる結果を残すには、継続的な学習が必須です。なぜなら、範囲は広いのですが、出題はそのうちの一部分です。つまり、どこが出題されるかわからない一部分を解くためには、出題範囲すべてを一定のレベルで習得していなければならないため継続的な学習が必要となります(これは入試本番でも同様です)。

《はじめてのマーク形式模試》

近年の共通テストは、問題文が長い傾向があります。どの教科も的確に出題意図を読み取る能力が求められます。また、マークが薄かったり雑だったりすると、機械に読み取られず採点されません。そのため、以下の物を準備してください。
※持物…時計・「HB」の鉛筆またはシャープペン・よく消える消しゴム

【新人大会上位大会出場者】(敬称略)

ソフトボール部(男子優勝) 21H 小寺 朔矢 23H 河上 大輝 25H 谷口 大和 26H 向 陸斗 27H 長坂 透真
フェンシング部 男子団体フルーレ(優勝) 23H 横井 優樹 24H 奥村 俊介・中村 玲雄 27H 山際 晴暉
男子個人エペ(準優勝) 21H 西森 颯汰
弓道部 女子団体(4位) 21H 喜多 みりや 23H 長戸 優乃 24H 二又 佑妃 渡部 優花 25H 竹井 元乃
27H 中山 実優 28H 竹内 美晴
女子個人(6位) 23H 長戸 優乃

2年生企業見学会

去る11月29日(金)午後、2年理系女子生徒41名が、高松機械工業(株)様と(株)BBS金明様の向上を見学しました。会社説明を受け、工場内を案内して頂いた後、女子社員の方に質問をしたり、座談会形式でざくばらんに話を聞いたりすることができました。このような職種に直接触れる機会がなかなかないので刺激になったようです。また、年齢の近い女子社員の方と話せたこともよかったですと思います。なお、この企画はDXハイスクール事業の一環でもあります。



MGP (明倫グローバルプロジェクト) 最終発表会

12月6日(金)の「総合的な探究の時間」において、11月2日の中間発表会で選出された以下の4チームが2学年の生徒を前に全体発表をしました。金沢工業大学基礎教育部教職課程の木村竜也准教授と学生1名を迎え、それぞれの発表に改善点などを指摘して頂きました。そして、「進路先でも探究活動は続くので皆さんのことを期待しています。」と2年生にエールを送って下さいました。

今後、4チームは校内に展示するポスターを作成します。最優秀賞チームは学校外での発表準備に取り掛かります。また、2年生ひとりひとりが探究した研究要旨を成果として残します。

最優秀賞	【自然災害】今のままでと今のままですよ！	25H 田中、25H 前田、27H 脇本
優秀賞	【ジェンダー】性的指向についての意識調査	27H 山城、24H 中川、25H 山本、25H 田村、24H 高橋、24H 宮本
優秀賞	【土木・建築】津波に強い建物を	21H 藤、21H 近藤、21H 後藤
優秀賞	【情報技術】～！メイリンのキカイカ！～	22H 角本、26H 中村、21H 西森、22H 岩城



【執筆者のつぶやき】学習時間をのばすための個人的イメージについて

みなさんは、「受験生としての勉強」をどのようなものと考えているでしょうか？大きく分けると、「勉強量＝学習時間」と「勉強の質＝効率的・効果的な取り組み」の2つとなるのではないのでしょうか？私としては、「量」をこなす中で、効率を上げ、効果的な方法を身に付けることで「質」が向上していくと考えていますので、今回は「学習時間」の話をしたいと思います。

受験を控えた3年生の学習時間としては、部活など何もない休日は1日あたり最低「10時間」が基準になります。では、10時間勉強するのに必要なことは何でしょうか？「10時間」のためには、(休憩を挟みつつ)座り続けること、一定の集中力を発揮し続けることが求められます。いきなり取り組むのは無理でしょう。しかも1日だけではなく、夏休みともなればお盆前後の10日間程度、連続して取り組まなければなりません。1日だけ取り組んで力尽きてしまっては意味がないのです。これらを可能とする方法は「慣れ」です。難しくいうと「適応する」ということです。さらに言うと、自分の身体とメンタルを連日10時間学習できるように改造することです。毎日取り組み続けるためには、全力を出さず、次の日の余力を残しつつ学習する必要があります。そのためには、徐々に学習時間を延ばし、自分を長時間学習に「慣らして」いくしかありません。

そのために大事なことは、「休みすぎないこと」です。ある程度疲れが残っている状態で(＝疲れが完全に取れる前に)次の学習に入ることです。この方法は、ランニングのトレーニング理論を調べた時に知った話です。イメージとしては右図の通りですが、トレーニングによって自分に負荷(疲労)を与え、次に回復期間を設けることを繰り返します。その時のポイントは、疲れ切らない程度に頑張ること、完全に疲労を回復させないことです。一定の疲労を抱えたまま、次のトレーニングに入ること、疲れている中でいかに頑張れるか、が身に付きます。そして、慣れてくれば、疲れている中でもパフォーマンスを発揮できるようになります。さらに、だんだん慣れてきたら負荷の程度を徐々に上げ、最終的には自分の能力の底上げにつながるという考え方です。この方法論は、長時間の学習に耐えうる自分を作る、試験中疲れてきたときに頑張れる自分を作る、そのための学習に当てはめることができるのではないかと考えます。3年生になったときに、しっかり学習に取り組むことができるよう2年生の残り3カ月、1日当たりの学習時間を1週間で20分ずつなど、徐々に延ばして試してみたいかがででしょうか？

